

鳥取県青少年育成アドバイザー協議会通信

鳥取県青少年育成アドバイザー通信 47号
鳥取県青少年育成アドバイザー協議会
発行日 2006. 7. 2
編集 芳村恵子
〒680-0002 鳥取市浜坂東1-10-15

平成18年度鳥取県青少年育成
アドバイザー協議会総会

日時：平成18年6月17日(土)
場所：鳥取県立倉吉体育文化会館
出席者：山本 田中 熊本 森岡 新川
井上 上田 清水 芳村 松原

山本会長より、「子ども達の命が危険にさらされる場面が多い。『子どもの安心・安全』が気にかかる。『のびのびと健やかに』が難しくなった。そして、本来『健やかにのびのびと夢を持って、わが国を担っていく子を育てよう』というねらいの活動が、心配事が多くなり、その予防対策に目を向けている現状である。」と話される。

また、「青少年育成鳥取県民会議のあり方検討委員会」が発足したとのこと。

私達も、自分達の活動方針を今一度確認し、目標に向かって新たな一年をスタートしていきたいものです。

詳細は報告書をご覧ください。



「私が変われば、あなたも変わる」

山本邦彦

通信愛読者のみなさん、元気で青少年問題の解消に取り組んでおられることと思います。

最近、身近にいる大人が幼い子供を殺害したり、子供が自分の親を殺したりする悲しい事件が相次いで起こっています。事件を起こさないまでも、怒りを感じたり、怨みに思ったり、自分が困ったり苦しんだりするのは、あの人のせいだ、等と思うことは多くあると思います。

私にもこのような邪念を起こしてしまう自分を自覚することが度々あります。あの人がこうしてくれればもっと自分は良くなった、あの人がいなければもっと自分は苦しまなくて済む、などと「あの人」のせいで・・・又、社会のせいで・・・と思うことが、大なり小なり存在し、それを思いつめた結果が様々な問題を起こしているようです。

この他人のせいにする発想は誰もが持っています。自分中心の考え方に起因していることに気付く人は少ないのではないのでしょうか。気がついたとしても、誰もが同じ考え方を持っており、私一人だけではない、と自分を弁護してしまいます。誰も自分が一番可愛い、誰もが自分が一番大切に、私はいつの時も悪くない、と思っていきたいのです。

私もその一人です。しかし、この考え方には問題があります。少し、ほんの少し考え方を譲って、「私も勿論大切だけど、貴方も私以上に大切な存在である」と考えることができる自分になれば、



もっと素晴らしい自分になれるのではないのでしょうか。自分を主張する前に、周囲の主張を快く受け入れることができたなら、もっと自分は楽になり、もっと幸せな自分が実感できるのではないのでしょうか。本当は他人が悪いのではなくて自分が悪いのではないか？少し自分の考え方を変えることはできないか？そうすれば、新しい自分に出会い、もっと心にゆとりが持てて、周囲を正しく理解できる自分が誕生するのではないだろうか。周囲を正しく理解できれば解決への道筋は見えてくると思います。

なかなか難しい課題ですが、「大人が変われば子どもも変わる」といいます。自分を変えるキーは「全てに感謝をする心」ではないかと私は考えています。

裏面に続く

私の仏道修行の終身課題は「怒らないで、全てに感謝すること」であります。平常心を保ち合掌して、「有難うございます」と心から感謝して毎日を生きることが出来る自分をめざし、悪い事はせず、少しでも多く社会の役に立つことができたなら尚良し、いつも笑顔と感謝の心で一杯の毎日を生きることができたら最高。

少しでも、こんな自分に変わる事ができたら、きっと健やかな子ども達の育成にも役割を果たす事のできる自分になれるだろう。そんな思いで毎日を精一杯生きています。皆様との出会いに感謝し、次代を担う青少年の健やかな成長を願い行動する目標を共有することに、喜びを感じながら、最近の私の思いを綴ってみました。

・ ・ 朝に希望、夕べに感謝 ・ ・
合掌。

今年度も「はぐくみ」が発行できませんでした。折角の想いを通信で紹介させていただきます。なお、今年度は新たに『はぐくみ作成委員会』が設立されました。自分達の想いを仲間に伝え合い、そして我々の活動を多くの方に知って頂けるような素晴らしいものができる事を願っています。

命のつながり～未来へのバトンタッチ～

井上 廉女

早いもので、遠く離れて暮らしている我が家の息子たちも25と21歳。これからの人生をともに歩む人を見つけ新しい命をはぐくむ日もそう遠くないかもしれない。彼らの友人からも次々とそんなうれしい知らせが届いている。

私も我が子の子育てはそろそろ卒業。今度はボランティアとして、地元で育児に励む若い親子との出会いがふえてきた。そんな今、これから親世代になる若い人たちに伝えたい。「子育てに困ったときには周りを見てごらん、助けを求めていいんだよ、きっとだれかいる

から。無理してがんばらなくてもいいんだよ」と。

自分自身の子育てを振り返ってみると、誕生の喜びも早々に初めはわからないことだらけでとても不安だった。団地住まいをしながら育児書を頼りに毎日を過ごしていた。間もなく外に散歩に出かけるようになると同じような子どもを連れて近くのお母さんたちと顔見知りになった。お互いに行き来しながら一緒に遊ばせる機会がふえるにつれてだんだんと楽になれた。あのまま近所のだれとも会わずに過ごしていたらどんなだったろう。孤立感がどんどん深まっていたに違いない。

人は子どもを産んですぐ親になれるかという、いきなりなかなかそうはいかない。うまくいかないこともいっぱいある。悩みながら育てているうちにどんどんかわいくなってきて、親子のきずなが深まり、親として育っていく。乳幼児期の子は日々が新たな発見と喜びに満ちている。これを見逃す手はない。親として生命の不思議をたっぷりと味わってほしい。このごろ父親も一緒に子育てに参加する姿が見られるようになってきたのがとてもうれしい。



今、田舎ではどんどんと子どもが減ってきて、周りに同じような年齢の子どもや仲間がいない状況が生まれている。抱え込まないで子育ての緊張感をうまく発散するような場をつくることがぜひとも必要になる。子育てサークルや地域の子育てイベントなどにはどんどん参加してほしい。ゆったりと気持ちを受けとめる先輩ママ、何でも気軽に話せる友人たちとの交流によって、地域のみんなで子育て家庭を支え、子どもたちを見守り育てていければいいなと思っている。

命は受け継がれる。私たち大人は次の世代に責任を負っている。次の世代の子どもたちのために何が出来るかをよく考え、よりよい未来へ向けてバトンタッチしていきたい。

つながれている「いのち」

芳村 恵子

私は母と父から「いのち」を戴いた。そして、新たないのちを育て、そのまた新たないのちをこの手に抱いている。

我が子によく似た孫を見ていると、まるで若かりし頃の必死で子育てをしている自分を思い出す。「大きくなあれ」「強い子になあれ」「優しい子になあれ」……あれこれ一杯の願いを込めて、24時間休むことなく育児は続く。満面の笑顔で抱きしめたり、時には鬼のような顔になったのではと「はっ」と立ち止まることもあった。

そんな時、頭に浮かぶのは、やはり母や父のことだった。自分がしてもらったことや、口癖までもいつの間にか同じことをしていることに苦笑することがあった。また「良く頑張ってるねー」「いい子に育てているねー」と褒めてくれた母の言葉に、お世辞かもしれないけどそれでも嬉しくて、一時子どもに帰ったようないい気分させて貰ったことなどを思い出す。

そして今、母親となって子育てという大きな仕事をしている娘に、母が私にしてくれたことやかけてくれた言葉を、また知らず知らず繰り返している。

こうして、いのちだけでなく心や仕草までも、受け継がれている。「私は私」と、自分を中心に思うように生きることを良しとする風潮が強い今だからこそ、これから「いのちをつなごう」とする前に、大切にそして一生懸命育ててくれたそれぞれのご両親の心を思い出してもらいたいと思う。

そんな計り知れない大きな力や感謝の気持ちを少しでも受け止められたら、「授かったいのち」に対して、有難さや尊さを感じられるのではないだろうか。そうした二人の心がひとつになった時、本当のいのちは始まるのではないだろうか。

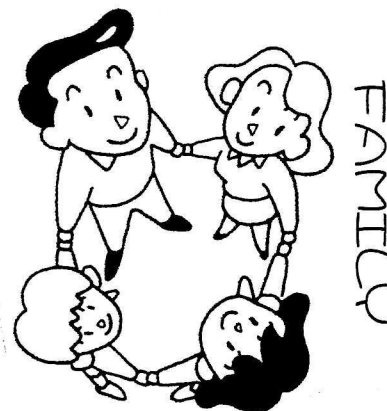
そして、そのかけがえのない「いのち」を育てることを楽しんで欲しい。育児の結果はすぐに出ることはないだけに、ゆったりと子どもと手をつないで歩いて欲しい。ヘルプを言ったり、涙を流すのは、決して弱虫だから

じゃない。だって子育ては一人でできる筈もなく、周りのみんなに助けて貰うのが当たり前なんだから。頑張りすぎないで、我慢しすぎないで、甘えることも大事だよ。

また、女性であること、男性であることの素晴らしさを子ども達に伝えて欲しい。次代を生きる子ども達が、大人になることに夢を持って生きられるように、輝いて生きて欲しい。

今、「ばあちゃん」と呼ばれるようになってなお更、いのちのつながりを強く感じるようになった。いつかこの「いのち」も誰かにバトタッチする日が来る。幼い時、ふっとしたことで、「人間は死ぬ」ということを感じて恐くて何日も泣きじゃくったことがあった。その時、母は「順番があるのだ。絶対に親より先に死んではいけない。」と言いながら抱きしめてくれた。その両親は二人とも元気で仲良く暮らしている。私も言いつけを守って、最愛なるじいじと一緒に元気にばあちゃんを楽しんでいる。

どうか我が子そして孫たちも素敵な人生を歩んで欲しいと願う。



編集後記

まだまだたどたどしいのですが、Eメールを始めました。携帯メールと違って即効性はありませんが、じっくりとお話が出来、遅くなってからでも遠慮なく入れさせて貰い、楽しんでいます。

編集作業もお陰さまで簡単となり、喜んでいきます。皆様の原稿もどしどしお待ちしております。次回は9月発行予定です。宜しく願いいたします。

oine.oine.oinechan@fork.ocn.ne.jp
(word で入れてください)